



第41卷 第3号

史学・地理学・考古学

北魏末の内乱と城民(上)……………谷川道雄(1)

納所小論……………吉田晶(22)

——律令的徴税組織の解体の一断面——

ワイマール共和国前半期における帝制復興運動をめぐる一考察
——ドイツ国民人民党を中心として——
……………中村幹雄(39)

動 向

ドイツの東洋学——附日本学——……………田村実造(58)

書評と紹介

東洋史研究会；羽田博士史学論文集 上巻歴史編 ……榎 一 雄(66)

赤松俊秀；鎌倉仏教の研究 ……藤 島 達 朗(69)

吉村茂樹；国司制度崩壊に関する研究 ……横 田 健 一(73)

塩沢君夫・川浦康次；寄生地主制論 ……中 村 哲(77)

山田憲太郎；東西香薬史 ……加 藤 保(83)

例会予告

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会
辰巳口座京郵三七八

この小論の意図した点もいじつたのである。

① Vgl. K. D. Erdmann, Die Geschichte der Weimarer Republik als Problem der Wissenschaft, s. 5. (in Vierteljahrshefte für Zeitgeschichte, 3 Jhrg., 1955, Heft. 1.)

② 共和国崩壊要因についての諸学説の展望をよるために、K. D. Erdmann, op. cit., ss. 4-19. が便利である。なお戦後に多数公刊をみたワイマール共和国に関する研究書を、今後とるべき研究方法を指示をれつゝ整理・紹介された篠原一『戦後におけるワイマール共和国研究』一四四—一五五頁（『日本政治学会年報・一九五七年』）は極めて貴重なものである。

③ 特々 A. Rosenberg, op. cit., ss. 227-252.

④ F. Neumann, Behemoth, The structure and Practice of National Socialism. pp. 18-34. (London 1943.)

⑤ 特々 T. Eschenburg, Die improvisierte Demokratie der Weimarer Republik. ss. 31-48. (Geschichte u. Politik Heft 10)

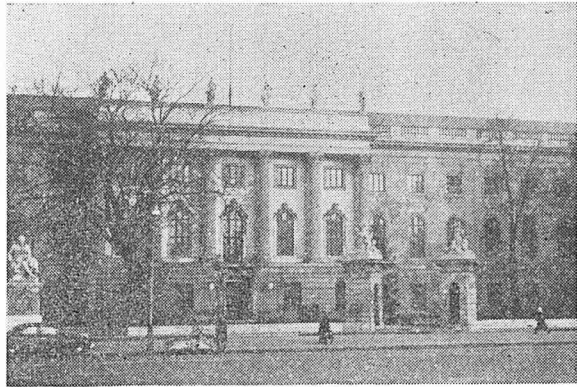
⑥ 例えば以下の文献を参照 G. W. F. Hallgarten, op. cit., ss. 98-119.; F. Klein, Zur Vorbereitung der faschistischen Diktatur durch die deutsche Grossbourgeoisie 1929-1932. ss. 874-904 (Z. f. GW, 1953, Heft 6); J. W. Wheeler-Bennett, The Nemesis of Power, The German Army in Politics 1918-1945. pp. 194-286.

⑦ この点については、岡部健彦『ワイマール共和国末期における独裁的傾向』三四七—三七二頁（猪木正道編『独

裁の研究』所収・東京・昭三二年）。なお拙稿『ルマン・ミラー大連合内閣の崩壊について』一一—一九頁（『西洋史学』三四輯・一九五七年）を参照。

執筆者紹介

谷川道雄	名古屋大学助手
吉田晶	京都大学大学院学生
中村幹雄	京都大学大学院学生
田村実造	京都大学教授
榎一雄	東京大学教授
藤島達朗	大谷大学教授
横田健一	関西大学教授
中村哲	京都大学大学院学生
加藤保	広島大学大学院学生



第七図 東ベルリン、フンボルト大学

いろいろの事情から東ベルリンのフンボルト大学と東ドイツ国立図書館とを訪問しただけであつたので、充分な消息を知ることができなかった。

なお、はじめの予定では、ソ連邦における東洋学研究の現状についても、のべるつもりであつたが、すでにあたえられた紙幅をこえたので割愛することにした。

これに関しては雑誌

(一九五八・三・八)

「東洋学」第一六輯にのせておいたから、あわせよんでいただきたい。

史学研究会例会 予告

五月例会

五月一日(土曜日) 午後一時より 於京大薬友会館

講師演題

中岡慎太郎の「藩」論について

—日本における絶対主義理論の萌芽—

池田敬 正氏

(題未定)

絶対主義と市民革命

島田虔 次氏

六月例会

六月七日(土曜日) 午後〇時半

京大史学科陳列館前出発

臨地講演

コース 二条城—二条陣屋—角屋

以上バスにて巡回(講師未定)

参加会費 一五〇円

定員の関係がありますので、参加御希望の方は、五月末日までに当会宛御申込下さい。(但し満員次第メ切ります)

七月例会

七月五日(土曜日) 午後一時より 於京大薬友会館

「技術史の諸問題」 (講師は追て発表いたします)

史学研究会委員の交代について

委員末尾至行氏(地理)及び笠沙雅章氏(東洋史)は、事情により三月末日をもって辞任し、代つて押野昭生氏(地理)横山裕男氏(東洋史)が新たに委嘱されました。以上

◆最新刊◆

東洋史研究叢刊 第四之一

アジア史研究 第一 宮崎市定著
A5判五二七頁 定価千三百円

◆既刊◆

東洋史研究叢刊 第一

九品官人法の研究 宮崎市定著
A5判六二〇頁 定価千五百円

東洋史研究叢刊 第二

清代塩政の研究 佐伯 富著
A5判四五六頁 定価千五百円

東洋史研究叢刊 第三之一

羽田博士史学論文集 上巻歴史編 羽田 亨著
A5判八〇〇頁 定価千六百円

◆近刊予告◆

東洋研究叢刊 第三之二

羽田博士史学論文集 下巻宗教言語編 羽田 亨著

東洋史研究叢刊 第四之二

アジア史研究 第二 宮崎市定著

東洋史研究叢刊 第五

古代チベツト史研究 佐藤 長著

京都市左京区吉田本町
京大文学部陳列館内

東洋史研究会

振替京都三七二八番

編集後記

補助金打ちりに苦しみながら、どうやら一年間隔月定期刊行をくずさずに求られたことを、会員の皆様とともに慶びたいと思います。

今号は、谷川・吉田・中村氏の論考、いずれも力作揃いで御期待にこたえる内容と確信しております。最近ソヴエト・ヨーロッパの旅から帰られた田村氏には東洋学の研究動向をお願いしました。書評欄もいずれ劣らぬ問題提出的な内容と自讃して居る次第です。研究の発展に益する建設的な批判・論争は、史林の歓迎するところでありませう。御投稿をお待ちして居ます。

なお、前号会告でお知らせしました総目録の刊行は、都合により若干遅れておりますが、次号四一巻四号とともに御手元にお届けできると思っています。あしからず御諒承下さい。

(朝尾直弘)

一九五八年四月二五日印刷
一九五八年五月一日発行
定価 百円

史林 (第四一巻 第三号)

発行所 京都市左京区吉田本町
京大文学部内
史学研究会

理事 長 振替京福五一五五番
編集主任 赤松俊秀
宮崎市定

印刷所 京都市下京区七条御所ノ内東町三九
中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLI NO. 3 May, 1958

CONTENTS

Articles:

- Rebellion and *Ch'eng Min* (城民) at the End of the
Pei Wei (北魏) Dynasty.....*M. Tanigawa* (1)
- On *Nassho* (納所)*A. Yoshida* (22)
—an aspect of the dissolution of the *Ritsuryō* (律令)
tax-collection system—
- A Study of the Monarchistic Movement in the first half
Period of the Weimar Republic; especially concerning
the German National Peoples Party.....*M. Nakamura* (39)

Note :

- Orientalogy in Germany.....*J. Tamura* (58)

Book Reviews

Published
by
THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan